

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		社会教育推進事業				②事業番号		7605	
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		○ 法令		○ 条例		○ 規則		○ 要綱	
⑦実施手法		○ 直営		○ 全部委託		○ 一部委託		○ 補助・負担	
⑧関連予算科目コード		款		9		項		5	
⑨担当部名		教育部		⑩担当課名		生涯学習課		目	
								1	
								3	
								細目	
								3	
								会計	
								一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 市民		① 人口		人	
② 社会教育関係団体		② 団体数		団体	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
社会教育関係団体が開催する事業運営にあたり、スムーズに進行できるよう、指導、助言などを行う。 団体名：泉南市文化協会・泉南市婦人団体協議会・泉南市PTA協議会		① 講座、イベントの開催数		回	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
活動の活性化を促し、組織の強化、会員の拡大を図る。		① 会員		人	
		② 計算式			
		③ 計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
社会教育団体の組織を強化、活性化するとともに、社会教育に対する市民の関心を深める。		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
(1-4-1-2 学習情報・機会の提供と相談の充実につながる。)		施策大(節) 4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします			
		施策中 2 生涯学習内容の充実			
		施策小 1 活動・発表・交流の場と機会の提供			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	人口	人	61,984	61,457	60,975	—	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②	団体数	団体	2	2	2	2	2	
活動指標①	講座、イベントの開催数	回	135	123	93	130	130	
活動指標②								R2年度の活動指標 の減は、新型コロナ ウイルス感染症拡大 防止のためほとん どのイベント類が中止 となったため。
活動指標③								
成果指標①	会員	人	342	310	304	340	340	
成果指標②								事業費などの推移にお ける特殊要因などの説 明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.80	0.67	0.15	0.15		
	正職員	人	0.14	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.02	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.02	0.00		
	事業費	千円	6,945	5,167	1,181	1,145		H30はの件費の 増は、参画事業・補 助金事業の活性化に 力を入れたため。
財源内訳	人件費(投入人員*単価)	千円	922	922	871	871		
	直接事業費	千円	7,867	6,089	2,052	2,016		
	総事業費	千円	0	0	0	0		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
財源内訳	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	7,867	6,089	2,052	2,016		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	高齢化の進行、団塊世代の退職による生涯学習への関心が高まり、市民の生涯学習に触れる機会、団体の発展の場を提供するため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	市民、団体のニーズの多様化に対応するとともに、少子化、高齢化により会員数が減少していることから、組織の強化を図るとともに、会員の拡大を図る必要がある。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	特定の分野、世代に偏ることなく、幅広い世代を対象に行う必要がある。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	B
②期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	イベントや講座の周知は図られているものの、市民の参加、参加団体は頭打ちの状態となっており、会員数にも大きな変化はない。					
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある イ. ない	団体が開催する講座、イベント内容を精査し、より多くの参加を図るとともに、団体活動の周知に努め、会員の拡大を図る必要がある。					
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	詳細な事業内容、運営方法の見直し、統廃合によりコストの削減が図られる可能性もある。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	会員数を増やすための広報の方法やコロナ禍においても実施可能な活動方法について検討する必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>	
イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 ↓ (年まで) エ. 休止 ↓ (年から) オ. 廃止 ↓ (年から)
	↓
<今後の展開方針>	
b	a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	
現在のイベント内容を精査し、コロナ禍、アフターコロナにおいても実施できる方法を検討するとともに、より幅広い世代の方に参加してもらえるよう周知する。	
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	
少子高齢化により一定の世代の方の参加が多くなっている。	